

令和2年度

森羅万象匠塾

JIA 三重の令和2年度の「森羅万象匠塾」は、令和3年2月19日に、地元四日市市出身の落語家の林家菊丸さんを講師を迎え、「笑いで免疫力アップ～日常会話に使えるプロのネタ」という演題で開催されました。

会場は富田の飛鳥神社という四日市市富田町の由緒ある神社で、拝殿の中では、コロナ禍ということで、密にならない様に席を取り、十分な換気をとって行われました。風通しの良い古い神社の拝殿の中で、2月半ばの晩冬の寒さは高齢者の私には身にこたえました(笑)。

この、飛鳥神社というのは、富田一色地区の氏子神社であり、前の広い通りでは鎌倉時代から続く「富田一色けんか祭」が毎年お盆に開催されてる、有名な神社です。年に何度か落語を演じられているそうです。

・笑うと免疫力が上がる。

林家菊丸さんは三重大大学の特任教授として特別授業を担当されていて、医学部で「笑いと健康」というテーマで、笑うとどれだけ免疫力が上がるか実験。笑うとナチュラルキラー細胞が活性化して、免疫力が上がるそうです。

落語を聞く前と聞いた後で医学部の学生の唾液をとって、免疫力をチェックしたが、授業だと生徒は意識するので、あまり笑わない。結果唾液チェックしたが、落語を聞いた後の方が免疫力が下がったという。大失敗の実験のお話。

・落語の修業は江戸時代から内弟子制度
落語は屋号を師匠から頂いて商売するから師弟関係が大事。

3年間は内弟子修業、雑用ばかりの修業。修行中、炊事、洗濯、掃除、これらをする事で何か得るものがあるのか。

キャリアを重ねることで、後から振り返ることによって、あの時のあの修業がいかに大事だったかが分かる。

修行中に教わる事の「三つの気」というのがある。



1. 気を読む：場の空気を読む。
 2. 気を働かせる：機転を利かす。先繰り機転。
 3. 気を入れる：気合いを入れる、気持ちを含める。
- この三つの気が落語家として生きていく上で、何よりも大切なこと。
落語のネタを教えてもらうより、おしゃべりのテクニックを得るよりも「三つの気」を体得しておく事が必要。

・言葉の心理学

三重大の授業で「言葉の心理学」というテーマで講演を行なった。

1. 言葉は何気ないうちに心のうちが表れてしまいます。
同じ返事を2回繰り返した時は「本当はそう思っていないよ」ということをの表れである。
一回で答えないと、相手に悟られることがあるので、気をつけないといけない。
2. 本当に伝えたいことは、話の最後、後半に持ってゆく。
これが効果的に伝わる。

小話を挟みながらの落語の世界や「日常会話に使えるプロのネタ」の話、楽しく聞くことができました。

最後は古典落語で締めくくられました。寒い辛さも忘れてしまう様な楽しい時間でした。

誰しも長い人生の中で、日常会話以外にも、いろんな場で話す機会があると思います。

そして私も何度か人前で話す機会がありました。



忘れられないのは、中学校で、友人の生徒会長選の立候補応援演説の為、壇上に上がって、頭が真っ白になって、言葉が出なくなったことは、当分の間、トラウマになっていました。

我々の仕事も打合せなどでお客さんと会話する機会も多い、会話の仕方次第で仕事をいただけるかどうかということもあったのかもしれない。

あまり喋るのが得意でないので、スピーチの本などで勉強したり、仲間とセミナーを受けたこともあります。それでもこんな程度だから、もともと、あがり症なこともあるが、やっぱり才能がないのだと諦めている。

しかし昨年、息子の結婚式で父親として最後の締め、カッコ良く挨拶をしなければならぬことになり、藁にもすがる思いで、スピーチ経験者の友人に相談し、アドバイスしてくれました。

スピーチの話し手が、一瞬で聞き手を引き込むために大切なこと。

それは「つかみ」を大切にすることです。この「つかみ」にもいくつかのパターンがあるようですが、聞き手の心が「ホッ」と和み、思わず笑みを浮かべるような「つかみ」を用意しました。

それは息子が小学校の机の中でダンゴムシを飼っていて、父兄参観の時に母親に見つけられたというエピソードでした。

バカな息子で良かったです(笑)。



川崎 貴覚 (JIA 三重)

川崎建築設計室